

別紙様式 1

教科等研究会（中学校英語部会）

令和 2 年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

主体的に自分の考えや思いを英語で表現できる生徒の育成を目指して
～バックワードデザインによる授業作りをとおして～

2 研究経過

第 1 回	第 2 回	第 3 回
期日 7 月 8 日（月） 人数 26 人 場所 益城中学校	期日 10 月 23 日（金） 場所 益城中学校 授業者 天野佑紀教諭	期日 1 月 22 日（金） 場所 益城中学校 内容 研修会

3 研究の概要

(1) 研究の内容

今年度は「主体的に自分の考えや思いを英語で表現できる生徒の育成を目指して ～バックワードデザインによる授業作りをとおして～」という研究テーマのもと、研究、実践、授業改善等を行った。

① 第 1 回教科等研究会

組織づくりを行い、学年部会で組織を構成し、研究授業の担当学年等を決めていった。

② 第 2 回教科等研究会

益城中学校の第 2 学年で授業研究会を行った。生徒たちが不定詞を学習する中で、学んだ内容を即興で英語を表現し、自分が将来就きたい職業を英語で発表するという授業を参観した。生徒たちは積極的に発表していた。その後の研究会では、バックワードデザインの策定について、多くの質問や活発な意見が出され、有意義な会となった。具体的には、指導と評価の一体化を図るために CAN-DO リストを作成し、「自分の将来の目標について、英語でクラスの人みんなに伝えることができる」という目標を考えて、そこから逆算し、それを可能にする活動をバランス良く入れていくものである。それぞれの活動がつながると生徒も必要感を感じるようになり、「この活動は何のためにおこなっているのか」と考えるようになる。「何のために？」「なぜ？」という疑問が、どのような力を付けようとしているのかを具体的に考えるきっかけになった。※詳細は、4 実践事例にて紹介

③ 第 3 回教科等研究会

上益城教育事務所の井島あゆみ指導主事を講師として「新学習指導要領の趣旨に基づいた授業及び評価について」と題する研修を行い、実際の場面を想定しながら、英語科における新学習指導要領のポイントと、指導と評価の一体化について理解を深めることができた。

(2) 成果と課題

○ バックワードデザインの策定について、「このプログラムが終わった時には英語でこんなことができるようになる」という明確なものをもって、毎時間の授業展開を意識するように実践を行うことができた。

● 4 月からの新学習指導要領の完全実施に向けて、「小中連携」は非常に欠かせないものであるが、今年度も小学校外国語活動部会との合同夏季研修会が実施できなかった。小中連携の機会となるので、小中合同の研修を行うのが重要と考える。

4 実践事例

(1) 授業の概要

○自評

教員になって 2 年目。初めての研究授業で緊張した。本日一番力を入れたかったことは、最後の「質問」の場面である。生徒には事前に質問するという事は知らせていなかったが、生徒はノートを見たりして、質問を考えている様子があった。そこが授業をして良かったと思ったポイントだった。普段から、質問→答えといったコミュニケーションをとる活動を行っているが、1 回きりのやりとりになっているところは自分の力不足かと思う。今日出席されている先生方から

たくさんのご意見等があればありがたい。

○まとめ

【西山教頭】

英語の研究授業は、普段の授業の様子が出る教科なので、ミスを恐れず、これからもどんどん研究授業行ってほしい。「教科書が基本だ」と言われたことがある。ある先輩は「教科書を10回以上読む」と話されていた。そのことが自分自身のモデル・ビジョンとなっている。何か困った時や、どうしようかと悩んだ時は、しっかり教科書を読んでほしい。学級の雰囲気がとてもよく、教師の真摯な態度に子どもたちがついてきているので、これらもしっかり学んでほしい。

【今村校長】

子どもの中に価値基準を作る。それは授業で学級経営を行っていくことが大事。自分も最初の授業研究会で、質問された内容が分からないこともあったが、そのような緊張にさらされて自分を鍛えていくことが今後の宝になっていくと思う。今日学んだことを、本校の教育にも生かしていきたいと思う。

(2) 学習構想案

第2学年 英語科 学習構想案

1 単元構想

単元名	PROGRAM 6 A Work Experience Program.		
単元の目標	(1) 不定詞の3つの用法を正しく理解し、運用することができる。 (2) 自分の将来の夢について不定詞を用いて将来の夢を発表できる。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①不定詞の3つの用法を用いた文の構造を理解している。 ②将来の夢について、自分の考えや気持ちなどを整理し、不定詞の語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。	①日常的な話題について、簡単な語句や文を用いて、話したり書いたりして表現したり、伝え合ったりすることができる。 ②職場体験について話されたり、書かれたりする文章等を聞いたり読んだりして、必要な情報や概要を捉えることができる。	①クラスメートのスピーチを聞いたり、教科書の体験記を読んだりして正しく理解することができる。 ②読み手、話し手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
単元終了時の生徒の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）			
読み手や聞き手にとって、分かりやすさを意識し自分が将来することを相手に伝えることができる。			
単元を通した学習課題（単元の中心的な学習課題）		本単元で働かせる見方・考え方	
不定詞を使った文法事項を有効的に使い、相手が知りたい情報を意識して自分の夢を紹介しよう。		不定詞には3つの用法があることに着目し、スピーチを通して正確に理解したり、適切に表現し、相手が知りたい情報を伝えるという「相手意識」につながる。	
指導計画と評価計画（9時間取扱い 本時8/9）			
過程	時間	学習活動（「問い」を設定しても可）	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
—	1	○ 自分のしたいことを言えるようにする。 ○ 本課全体の導入、職業を表す単語の導入、不定詞（名詞的用法）の導入、セクション1のBasic Dialog→Listen→Speak→Try→言語活動	★【知①】（生徒の反応・発言） ○ 名詞的用法を理解し、適切に使用している。 ★【態②】（ワークシート） ○ 相手が知りたい情報を意識しながら、まとまった文を作ろうとしている。
	1	○ セクション1の対話内容を理解して、将来の職業や夢について伝えあう。 ○ 前時の復習（単語・不定詞の名詞的用法） ○ 新出単語の導入、本文の学習	【知①】（ノート） ○ 教科書の本文の中の不定詞に気付き、使い方について簡単に説明できる。 ★【思②】（生徒の反応・発言） ○ 問いに対して、会話の内容を理解し、概要を捉えている。

二	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 不定詞の副詞的用法を理解し、行動の目的を言えるようにする。 ○ 前時の復習(単語・音読)、不定詞(副詞的用法)の導入、セクション2の Basic Dialog → Listen → Speak → Try → 言語活動 	<ul style="list-style-type: none"> ★【知①】(ワークシート) ○ 不定詞(副詞的用法)を理解し、適切に使用している。 ★【思①】(生徒の反応・発言) ○ 第三者の情報を知ろうと、相手に積極的に質問したり、答えたりしている。
	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ セクション2の対話内容を理解する。 ○ 武史が職場体験でスーパーマーケットに行き、あいさつの大切さを習ったことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【知①】(ノート) ○ 教科書の本文の中の不定詞に気付き、使い方を簡単に説明できる。 【思②】(生徒の反応・発言) ○ 問いに対して、会話の内容を理解し、概要を捉えている。
三	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 何をするためのものか言えるようにする。 ○ 前時の復習(単語・音読)、不定詞(形容詞的用法)の導入、セクション3の Basic Dialog → Listen → Speak → Try → 言語活動 	<ul style="list-style-type: none"> ★【知①】(ワークシート) ○ 不定詞(副詞的用法)を理解し、適切に使用している。 【思①】(生徒の反応・発言) ○ 相手が知りたい情報を意識しながら、まとまった文を作ろうとしている。
	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ セクション3の内容を理解する。 ○ 職場体験を終えた桃子が職場体験で学んだことや将来の夢について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【知①】(ノート) ○ 教科書の本文の中の不定詞に気付き、使い方について簡単に説明できる。 【思②】(生徒の反応・発言) ○ 問いに対して、会話の内容を理解し、概要を捉えている。
四	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ セクション3のスピーチの内容を理解し、自分の将来の夢や職業についてミニスピーチをする。 ○ セクション1・2・3をモデルにしたミニスピーチ作り。 	<ul style="list-style-type: none"> ★【知①】(ワークシート) ○ 不定詞の特徴や決まりに関する事柄を理解している。 ★【技②】(生徒の反応・発言) ○ コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、伝え合っている。
	本時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 将来の夢について、不定詞を用いたつながりのある5文以上の文章で、発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ★【知①】不定詞の3つの用法を用いた文の構造を理解している。 ★【主①】クラスメートのスピーチを聞いたり、教科書の体験記を読んだりして正しく理解することができる。(ワークシート)
後日	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ パフォーマンステスト ○ 単元テスト 	

2 単元における系統及び生徒の実態

学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)		
中学校学習指導要領(平成29年告示)外国語編 [知識及び技能] (1) 英語の特徴やきまりに関する事項 [思考力、判断力、表現力等] (2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項 オ 話すこと(発表・やりとり)		
教材・題材の価値		
本教材は、中学校の大きな行事のひとつである職場体験について書かれたものである。生徒にとっては大変身近な話題であり、取り組みやすい単元である。本校では、今年度、職場体験が実施されないため職場体験の状況を想像することは難しいと思われるが、本単元を通して将来の参考になるよう過去の職場体験の様子などの情報を付け加え、生徒に職場体験をイメージさせる必要がある。言語材料としては、不定詞の3つの用法が取り扱われている。		
本単元における系統(言語材料・一般動詞)		
2年 Program2 [A Trip to Finland] 未来表現 be going to ~	2年 Program6 A work Experience 不定詞	3年 Program3 The 5 Rs to save the Earth ・疑問詞+不定詞 ・It is for 人 to ~ ・SVO+不定詞
生徒の実態(単元の目標につながる学びの実態)		
■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況 2年次からの指導で、英文は<主語+動詞(+目的語または補語)>の語順であること、1つの文に動詞は1つであるという知識はある。しかし、不定詞の導入時に語順や3つの用法がある点で混乱する生徒が見受けられる可能性がある。教科書をもとにした対話文作りと発表は何回か行っているため、言いたいことを発表で		

きる素養はある。

■本単元の学習に関する意識の状況

本学級の生徒は、全体的に英語学習への関心が高い。男女間の関係が良好で、ペア学習では、互いに教え合いながら取り組むことができている。8月に実施したアンケートでは、全体の78%の生徒がペアやグループ活動で英語を話すことが「好き」「まあまあ好き」と答えていた。しかし、4技能の中では「話すこと」に苦手意識をもっている生徒が全体の55%いることが明らかになった。テストの結果や授業中の見取りからも、二極化が進んでいる。

■考察

知識や技能の習得が困難な生徒たちには、個々人に応じた細やかな支援をする必要がある。

3 指導に当たっての留意点（「校内研修の取組の視点」等から指導上の留意点等について明記）

- 第三者の情報をまとめ、伝え合うという目的意識・相手意識を明確にすることで、主体的な学びにつながる。
- 不定詞を使った文法を確実におさえ、自信をもって発表できるように、工夫する。
- TTによる細かい指導を行い、ふり返しシートに授業で学んだことを記入させることで、達成感と課題が明確になり、次の学習や家庭学習へとつながり、より主体的に取り組む態度や習慣を身に付けることができる。

※「人権が尊重される授業づくりの視点から」等（学校が設定する項目からそれぞれ明記）

4 本時の学習

(1) 目標

本時の学習 不定詞の3用法を適切に使い、自分の将来の夢について紹介できる。

本時の目標 (CAN-DO) : 身近な話題や場面設定の中で、話したり、質問したり、質問に答えたりすることができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)	備考
導入	7分	1、Greeting 2、introduction	○体調、日付、曜日、天候についてあいさつを行い(全体)、学習の雰囲気づくりを行う。 ○教師が発表の見本を見せる。	板書
展開	38分	3、Today's goal 課題をつかむ 【めあて】クラスメイトに将来やりたいことについてスピーチをして伝えよう。 4、Presentation (1) グループ発表 【期待される学びの姿】 不定詞を使って、相手に分かりやすく伝えようと意識しながら、情報を整理し、まとまった英文を話そうとしている。 (2) 代表者発表	○本時の目標を示す。 ○将来の夢について、前時まで仕上げた英文を班で発表する。(班) ○発表を行う際には、コメントを出し合う。 ○グループ内の様子を観察し、必要な助言を与える。 【具体的評価規準】表現 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。(話すこと[発表]) ○代表者の発表を行う。 ○聞き手は代表者に質問をしたり、感想をワークシートに記入する。 ○他者の文の構成やアイデアに触れることで、既習事項を用いた表現方法に気づかせる。	ワークシート ワークシート
まとめ	5分	5、Reflection ◇外国の人に自分の夢を伝える時は、今日のスピーチを使ってみよう。	○めあてや課題の達成状況を振り返らせ、何を会得し、何が理解できなかったのかをはっきりさせる。(振り返りシートの記入) ○相手の発表を聞いて、どのような表現を使えばよいのかなど、新たな問いにつなげ、次の学習へとつなげる。	ワークシート
		【まとめ】 将来の夢を伝える時は不定詞を使い分かりやすく伝える。		

